

緑のセンターだより



No.175

公益財団法人 旭川市公園緑地協会 旭川市緑のセンター（相談所）
〒078-8327 旭川市神楽岡公園内 Tel: 0166-65-5553 Fax: 0166-65-5626
旭川市公園緑地協会ホームページ <http://www.asahikawa-park.or.jp>

発行：平成 30 年 12 月 1 日



講習会のご案内

（お申込み・受付は前月の 20 日から）

「クリスマスからお正月の寄せ植え」

とき 平成 30 年 12 月 9 日（日）◎2500 円
午後 1:00～3:00 定員 20 名
講師 フラワーマスター 山本 裕美さん



「木の実などを使ったミニリースづくり」

とき 平成 30 年 12 月 16 日（日）◎500 円
午後 1:00～3:00 定員 10 名
講師 緑のセンター相談員



「果樹の剪定と栽培管理」リンゴ、サクランボほか

とき 平成 31 年 2 月 17 日（日）
午後 1:00～3:00 定員 50 名
講師 ふじくらますも果樹園
代表 増茂 聡さん



～年末年始のお知らせ～
12月30日～1月4日まで
休館させていただきます。
新年は1月5日より開館
いたします。



特別講演 「植物の病害虫と園芸薬品」

とき 平成 31 年 2 月 28 日（木）
午前 10:00～12:00 定員 50 名
講師 住友化学園芸 草間 祐輔さん



大人気!

「フラワーアレンジメント」

とき 平成 31 年 3 月 3 日（日）◎2000 円
午後 1:00～3:00 定員 20 名
講師 マミフラワーデザインスクール 澤沼 雅子さん



去年の作品

冬の肌荒れ乾燥、大丈夫？
「ハーブで美肌パックとソープ作り」
日時：1月25日（金）10～12時
教材費¥1,000 先着 10名
講師：ハーブコーディネーター 建部久美子さん



展示会のご案内

（初日は午後から、最終日は4時まで）

「神楽岡公園の四季写真展」1月8日～2月28日

【休館日のご案内】

4月～10月は第2・第4月曜日（祝日の場合は翌日）
11月～3月は毎週月曜日（ " " ）

《歩くスキー無料貸出》

スキー・ポール・シューズの3点セット

期間：12月中旬予定

時間：10時～16時（貸出受付）

積雪・コース状況は確認必要

※くつ下持参（靴の調整のため）



〈園芸の基礎知識〉 植物の花成と開花

～ フロリゲン ～

■花成ホルモン(フロリゲン)とは

植物は日長や温度などの環境からの情報を手がかりに花を咲かせる時期を決めています。その中でも日長は特に重要な環境要因であることが知られています。日長を手がかりにして花芽の形成を開始する際に、植物は葉で光を感じ、葉の細胞が持つ体内時計を使って日長を計っています。植物は適当な日長を感じると、葉で何らかの物質をつくり、その物質が維管束(篩管)を通過して芽に運ばれて、芽における花芽の形成を促すと考えられています。この物質は古くから「花成ホルモン」(フロリゲン)という名前で呼ばれていました。

■花成ホルモン(フロリゲン)の正体は

シロイヌナズナ(アブラナ科越年草)では、“FT”と名づけられた遺伝子が、ツボミをつくるために必要な夜の暗闇を感じた葉で働きます。この遺伝子が働いてつくられるタンパク質が、葉から芽に移動することが見つっています。

イネ(イネ科多年草)では、“Hd3a”と呼ばれる遺伝子が、ツボミをつくるために必要な夜の暗闇を感じた葉で働きます。この遺伝子が作り出すタンパク質は、シロイヌナズナの場合と同じように、ツボミをつくるために必要な夜の暗闇を感じた葉でつくられたあと、葉から芽に移動することが確認されています。そのため、イネにおいては、この遺伝子が作り出すタンパク質がツボミをつくらせると考えられています。

シロイヌナズナでは、FT遺伝子が作り出すタンパク質(FTタンパク質)がフロリゲンであると考えられ、イネでは、Hd3a遺伝子が作り出すタンパク質がフロリゲンであると考えられています。

(参考資料: 科学技術振興機構「戦略的創造研究推進事業プレス発表」、ソフトバンククリエイティブ「植物学「超」入門」ほか)

図 FTタンパク質による「ツボミの形成」



緑の相談 QアンドA (49)

「モンステラ」を育てていますが、鉢の外に根が伸びて、床掃除するの
に邪魔になってきました。これは切ってしまったらダメなのでしょうか？



モンステラは、和名を蓬莱蕉(ホウライショウ)といい、サトイモ科モンステラ(ホウライショウ)属の常緑つる性多年草で、熱帯アメリカが原産です。原産地では気根の一つ付着根でヤシなどに這い上がって伸びていきます。葉に深い切れ込みや窓状の穴があるのが特徴で、葉を楽しむ観葉植物として人気のある植物です。成長すると白色の仏炎包とその中に緑色の肉穂花序が付き、黄色く熟すと香りも良く果肉は食用になります。管理は一般に窓辺で育てますが、耐陰性があり、室内の半日陰でもよく育ちます。夏の日差しの強い時期は、葉が日焼けしますので注意が必要です。水やりは土の表面が乾いてきたらたっぷり与え、時々霧吹きで葉水を与えてください。肥料は春から秋までの生育期に、緩効性化成肥料を2か月に1回程度施してください。室内ではハダニやカイガラムシが発生しやすいので十分注意してください。最後になりましたが、お尋ねの鉢の外に伸びた気根は、空気中の水分や養分などを吸収し、支柱の役割もしていますが、邪魔であれば切っても生育に大きな支障はないと思います。

(参考資料: 山と溪谷社「山溪カラー名鑑 観葉植物」、NHK出版HP「みんなの園芸」ほか)

※ホームページ (<http://www.asahikawa-park.or.jp>) に「花と緑の相談コーナー(Q&A)」を掲載しています。こちらをご利用ください。

植物の病害虫

その46 「つる枯病」



葉の症状



茎の症状



株元の症状

1 寄生しやすい植物

キュウリ、メロン、スイカ、カボチャ

2 被害

茎の地際部や節が侵されます。このため、発病部位より上部は萎凋して枯死します。葉に現れる症状は、淡黄色の円い大型病斑で、炭疽病より大型で周辺は不明瞭です。一般には葉縁から発病し、病斑が大きくなるにつれて破れやすくなります。葉柄が発病すると葉は枯れます。果実は、先端部から腐敗し、湾曲します。縦に切ると花の落ちた部分から淡褐色の筋が入り、果肉は柔らかく、心腐れ状態となります。病斑部には、黒色の小粒点(柄子殻、まれに子のう殻)が生じます。この小粒点をとり、顕微鏡で観察すると、無数の柄胞子が柄子殻から噴出するのを見ることができます。

3 生態

被害茎葉とともに土壌中や資材などに付いて越冬した子のう殻あるいは柄子殻から、子のう胞子あるいは柄胞子が飛散して第一次感染します。種子の表面に菌糸が付着して発病することもあります。病斑上に柄子殻がつくられると、そこに形成された柄胞子が飛散してまん延します。多湿条件は発病を助長し、発病の適温は20～30℃ですが、かなり低温の時期から発病します。生育の後半あるいは果実の成り疲れで草勢の衰えたときに発生が多くなる傾向があります。連作で発病が多くなります。

4 防除法

- ・ 連作を避け、罹病茎葉は処分します。
- ・ ハウスの換気を良くします。
- ・ 施肥、温度管理、灌水など適性な栽培管理により草勢を維持します。
- ・ 発病初期に薬剤の茎葉散布を行います。

キュウリ:マンゼブ水和剤「商品名、ジマンダイセン水和剤」を600倍で散布します。

チオファネートメチル水和剤「商品名、トップジン M 水和剤」を1500倍散布します。

スイカ :マンゼブ水和剤「商品名、ジマンダイセン水和剤」を600倍で散布します。

キャプタン水和剤「商品名、オーソサイド水和剤 80」を600倍で散布します。

TPN 剤「商品名、ダコニール 1000(フロアブル)」を1000倍で散布します。

葉と花を楽しむ「リュエリア」

キツネノマゴ科 ルエリア属

リュエリア(Ruellia)はブラジル原産の常緑多年草です。熱帯地域を中心に150種が分布していますが、その中でも強健で葉や花の美しいものが鉢花や観葉植物として見る事ができ、草丈は30~60cmほど、花は筒形の先端がラッパ状に5つに裂けて咲き、ピンク・朱色・青・白などの花色があります。



その一種のマコヤナ(makoyana)は、葉の葉脈部分がくっきり白く浮き出るのが特徴で、緑のセンターの温室では初冬から春にかけてピンクの花を楽しむことができます。茎はやや這うように伸び、地面に付いた節から根を出すので、根づけして容易に殖やすことができます。

.....< 失敗しない管理のコツ >.....

- ① 置き場所は一年中明るい室内で大丈夫です。生育期(5~9月)に戸外で育てる場合は、葉が傷むので強風雨が当たらない半日陰の場所。秋からは日が当たる室内の窓辺(7℃以上)に置いて育てます。
- ② 水やりは、生育期には鉢土の表面が乾いたら鉢底から流れ出るだけたっぷり与えますが、晩秋から冬の水やりは、やり過ぎると根腐れの原因になるので、鉢土が十分に乾いてから与えます。
- ③ 肥料は生育期間中、2か月に1回緩効性肥料を置き肥するほか、液体肥料(1,000倍)を2週間に1回程度併用して施します。その他の期間に肥料は与えません。
- ④ せん定は、株姿が乱れてきたら、春の花が終わった5月上旬に枝の1/3を残して切り戻します。切り取った枝は、葉を2~3枚着けて長さ5~7cmに切り、赤玉土(小粒)等に挿して殖やすこともできます。
- ⑤ 植替えは2年に1度、5~6月が適期です。この頃なら少々根や株を傷めても、生育がおう盛な時期なので早く回復します。用土は、赤玉土6、腐葉土4の混合土が適します。

展示室の植物 (82)

フィロデンドロン 学名: Philodendron サトイモ科 フィロデンドロン属

フィロデンドロンは世界中の亜熱帯地域を中心に650種類が自生するといわれています。分類上はつる性のものが多く、葉の形や草丈もさまざまです。特徴的には空中で生活できる「気根」と呼ばれる根を持っており、原産地ではこの気根を他の樹木に絡めながら成長する姿から、ギリシャ語の「愛する=フィロ」と「樹木=デンドロン」が合わさって名前がついたと云われ、その存在感から「幸運の木」との愛称で呼ばれたりして親しまれています。緑のセンターの温室には、代表するセローム種(ブラックカージナル、オレンジサンセット、グリーン)が展示されています。

